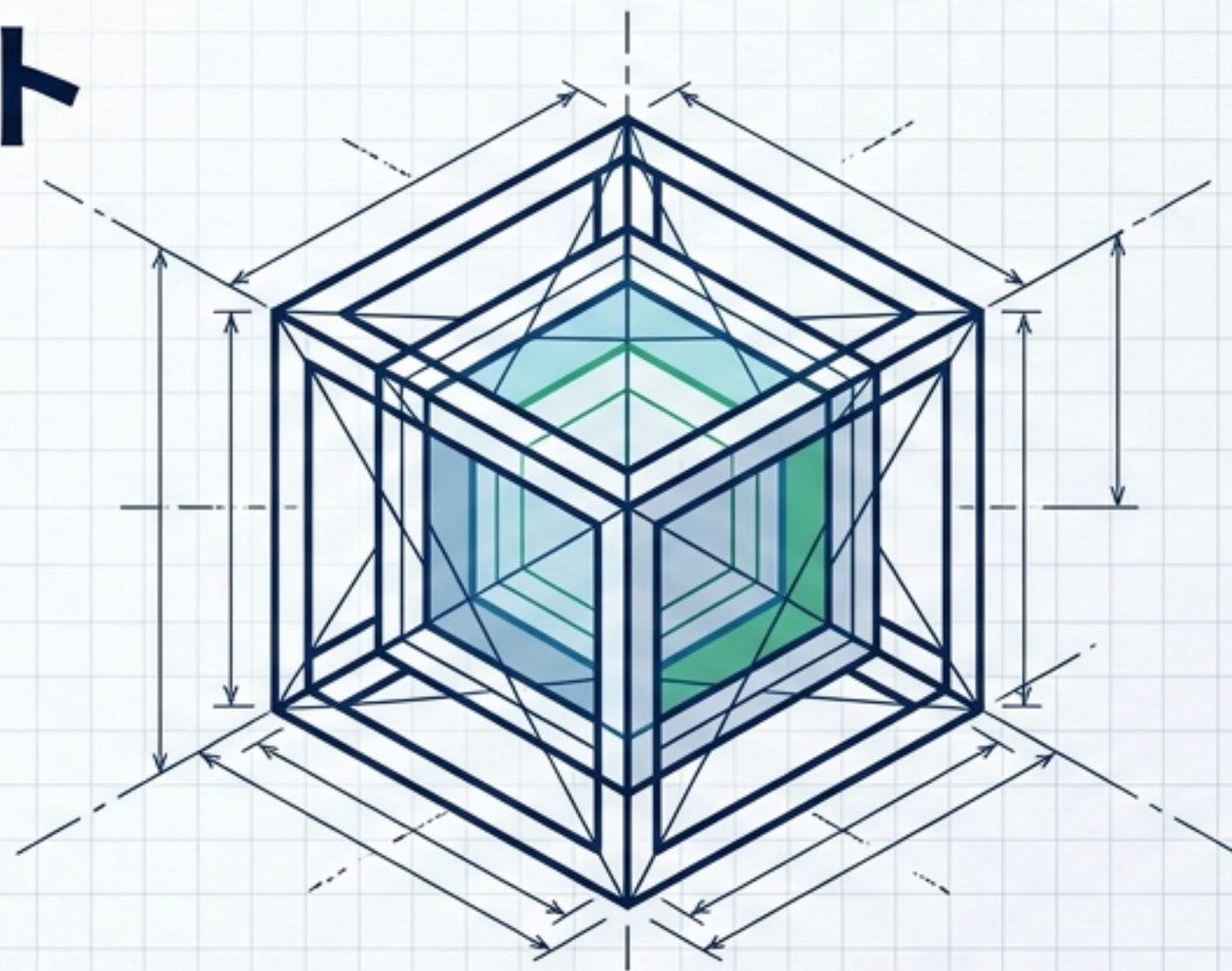


2026年の次世代知財戦略： 純国産LLM「tsuzumi 2」が実現するセキュア・ ブループリント



データ主権の確立から、コパイロットによる企業価値の最大化へ
対象読者：経営層・知的財産部門責任者・法務コンプライアンス担当者

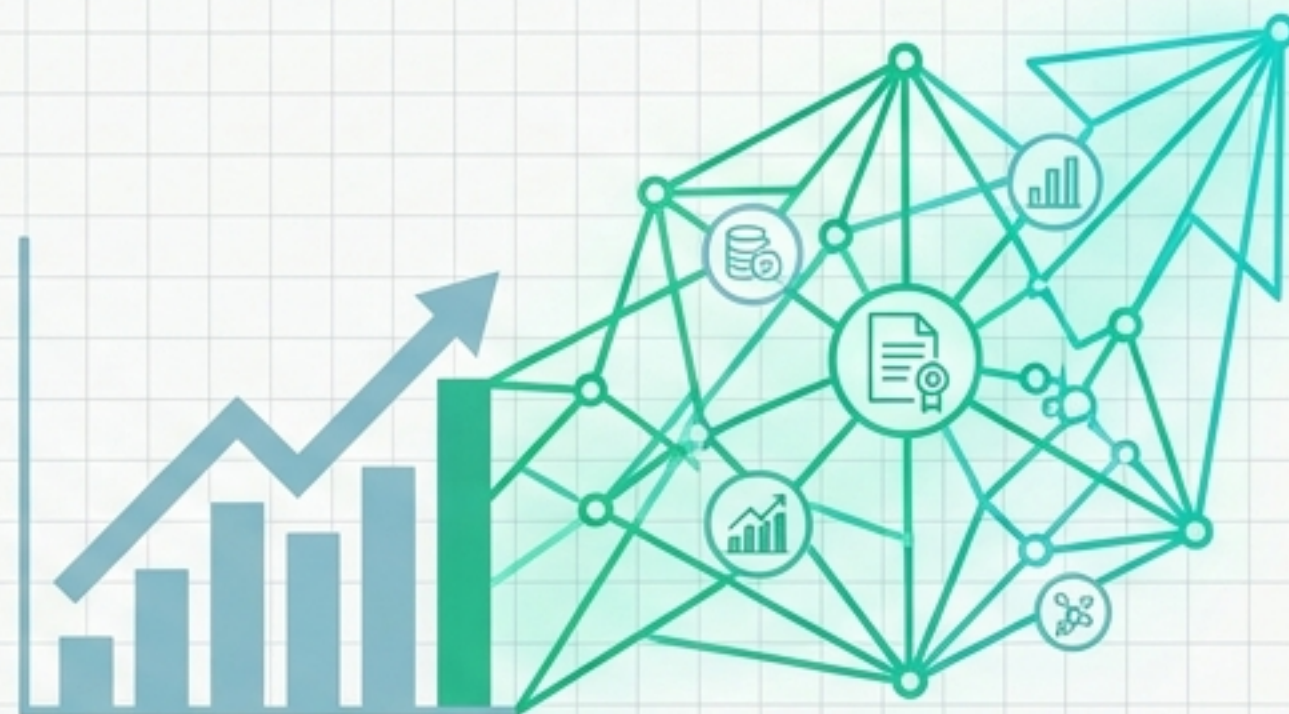
知的財産は「守りのコスト」から「攻めの経営資産」へとパラダイムシフトを迎えた

防衛的知財（バックオフィス）



- 特許権の維持・管理
- 他社からの侵害回避

戦略的知財（IPトランスフォーメーション / IPX）



- 無形資産への積極的投資
- 企業価値評価の重要指標としての特許ポートフォリオ

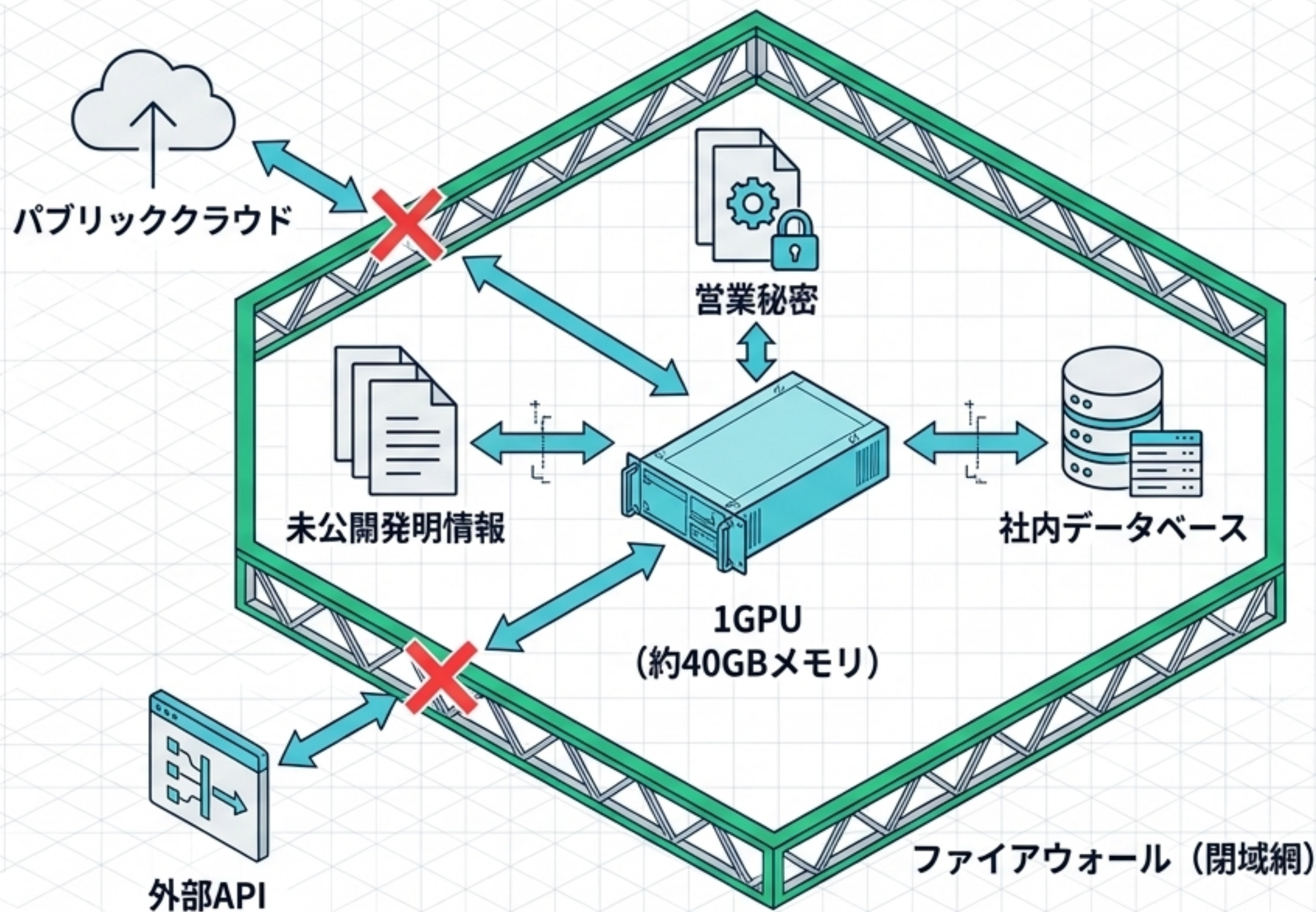
政府の『知的財産推進計画2025』を契機に、
市場は企業の特許の質・量・戦略性を厳格に評価する時代へ突入している

汎用クラウド型LLMが知財業務において越えられない「5つの構造的な壁」

2026年は検証期を終え、実証とコンプライアンスの年へ。汎用LLMへの無批判な依存は明確な限界を迎えている

知財LLM導入の5要件	【リスク】 汎用LLMの限界	【解決】 tsuzumi 2のアプローチ
守秘性とオンプレミス運用	特許法第29条に基づく新規性喪失・情報漏洩リスク	ファイアウォール内での1GPUオンプレミス運用によるデータ主権確保
証拠性と監査ログ	審査官への応答における引用箇所の不明確化	厳格なRAGアーキテクチャによる引用メタデータの紐付けと証跡化
ハルシネーション対策	虚偽情報による権利範囲解釈の致命的な誤り	業務特化型AIエージェントと専門ドメインファインチューニング
学習利用の明確化	プロンプトや社内データがAIベンダーの再学習に利用される懸念	エンタープライズ契約と隔離環境による二次利用リスクの構造的排除
ドメインコーパス	特許請求の範囲など特有の論理構造と専門用語への非対応	高い日本語処理性能をベースにした知財特有の長文・専門文書の追加学習

超軽量1GPUアーキテクチャが未公開発明情報を守り抜く「データ主権」の確立

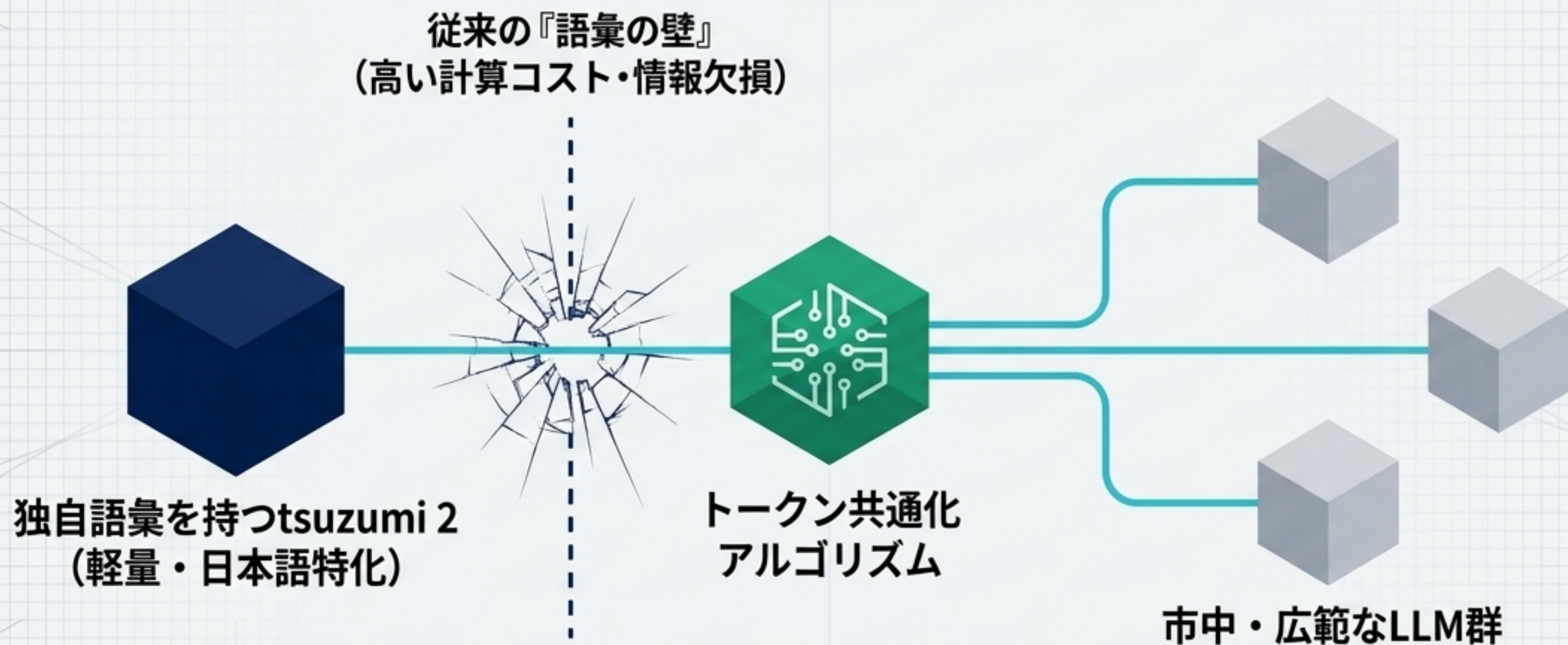


天文学的な計算資源を要求する
巨大モデルからの脱却

自社ファイアウォール内で
完全に独立したAI環境を構築し、
外部APIへの依存をゼロに

医療・金融・知財といった
最も機微なドメインでの
社会実装実績
(三重大学、ピアズ社など)

世界初「トークン共通化」推論技術が異種LLM間の“語彙の壁”を破壊する



- 2026年4月確立の独自アルゴリズム：通常の推論と同等の極低コストで動作
- アンサンブル学習やポータブルチューニングと組み合わせ、多様なモデル間で知識の統合と転移を実現

“目視前提”の業務DXラストマイルを打破する「tsuzumi 2 Vision機能」

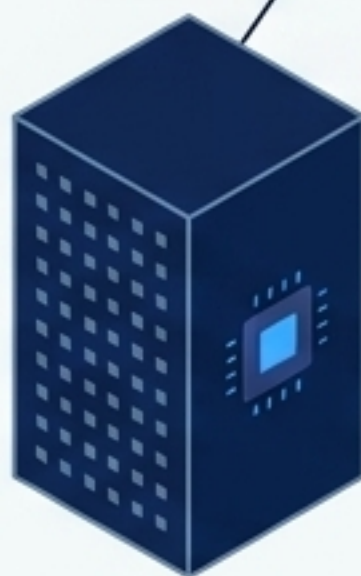
特許庁や知財現場に山積する図表入り非構造化文書を、エッジ環境でセキュアに完全データ化する

単なるOCRではなく、文書全体を
画像として空間的・論理的に認識



機微情報入り文書

1GPUの超軽量環境のまま
マルチモーダル処理を実現
(2026年5月アップデート)



- ① GPU tsuzumi
- ② Vision エンジン

オンプレミス境界
(ファイアウォール)

フロー図のYes/No分岐、因果関係、
レイアウト構造を保持したまま
構造化データへ変換



レイアウトと
意味理解



構造化データ抽出

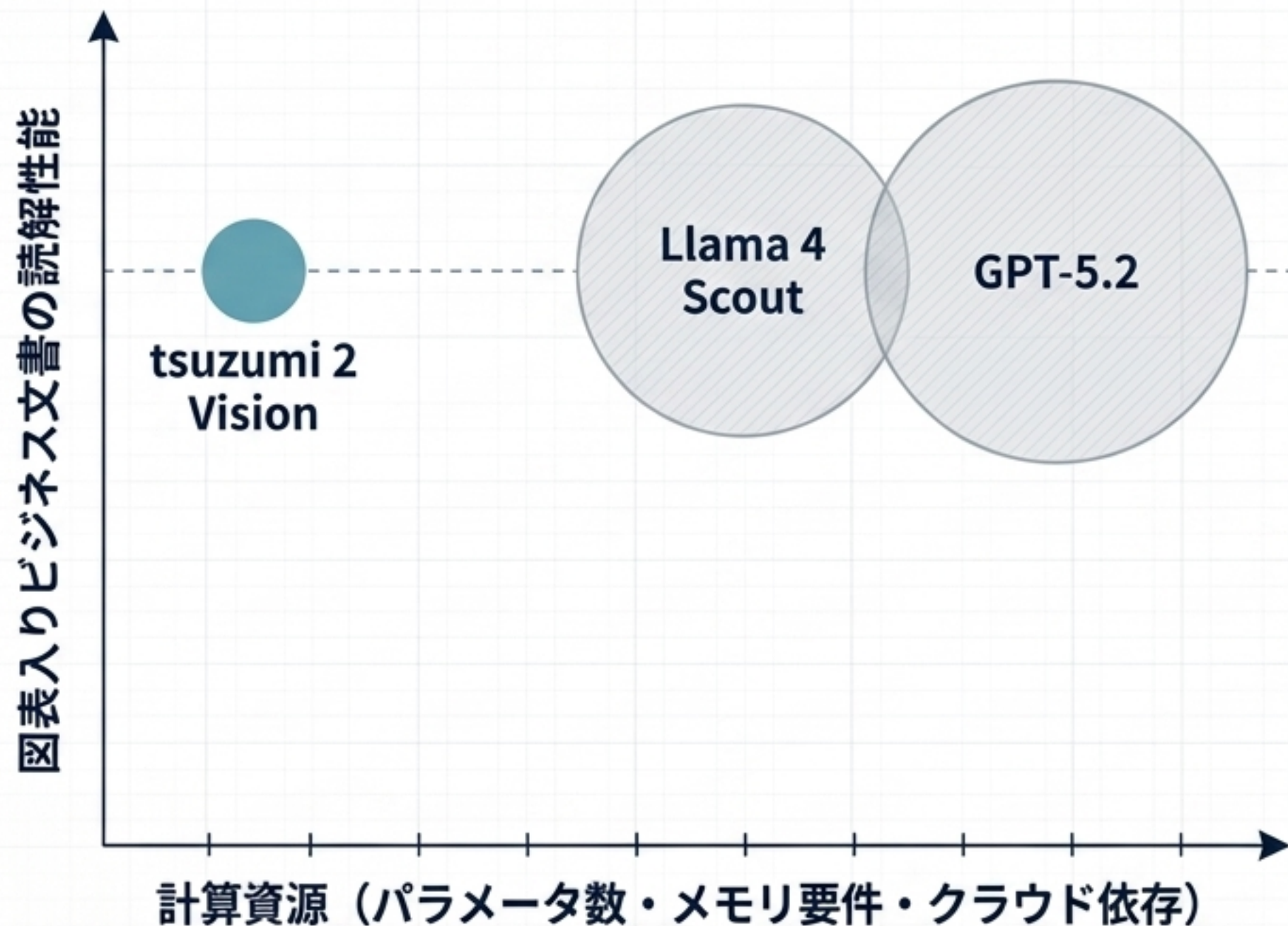


データベース



API連携

超軽量（1GPU）でありながら、巨大グローバルモデルに肉薄するマルチモーダル読解力



画像認識アダプターによる
深い意味理解

- ・ 帳票からの関係性抽出
- ・ フロー図のロジック追跡

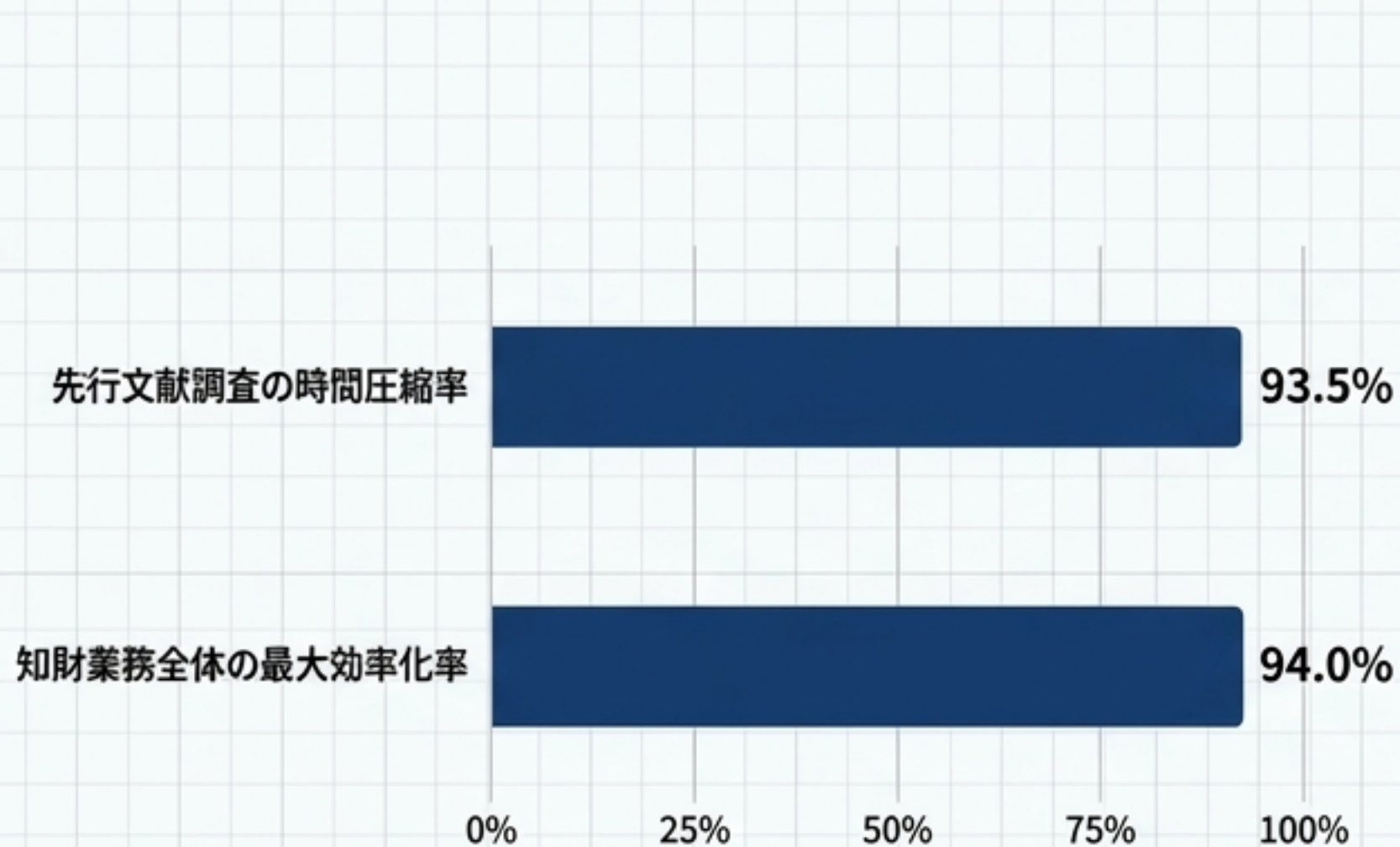
テキスト専用モデルにおける数値処理・API連携能力の底上げにより、
実務利用の範囲が劇的に拡大

現場のペイン解消：対話による「発明の壁打ち」が埋もれた特許出願機会を創出する



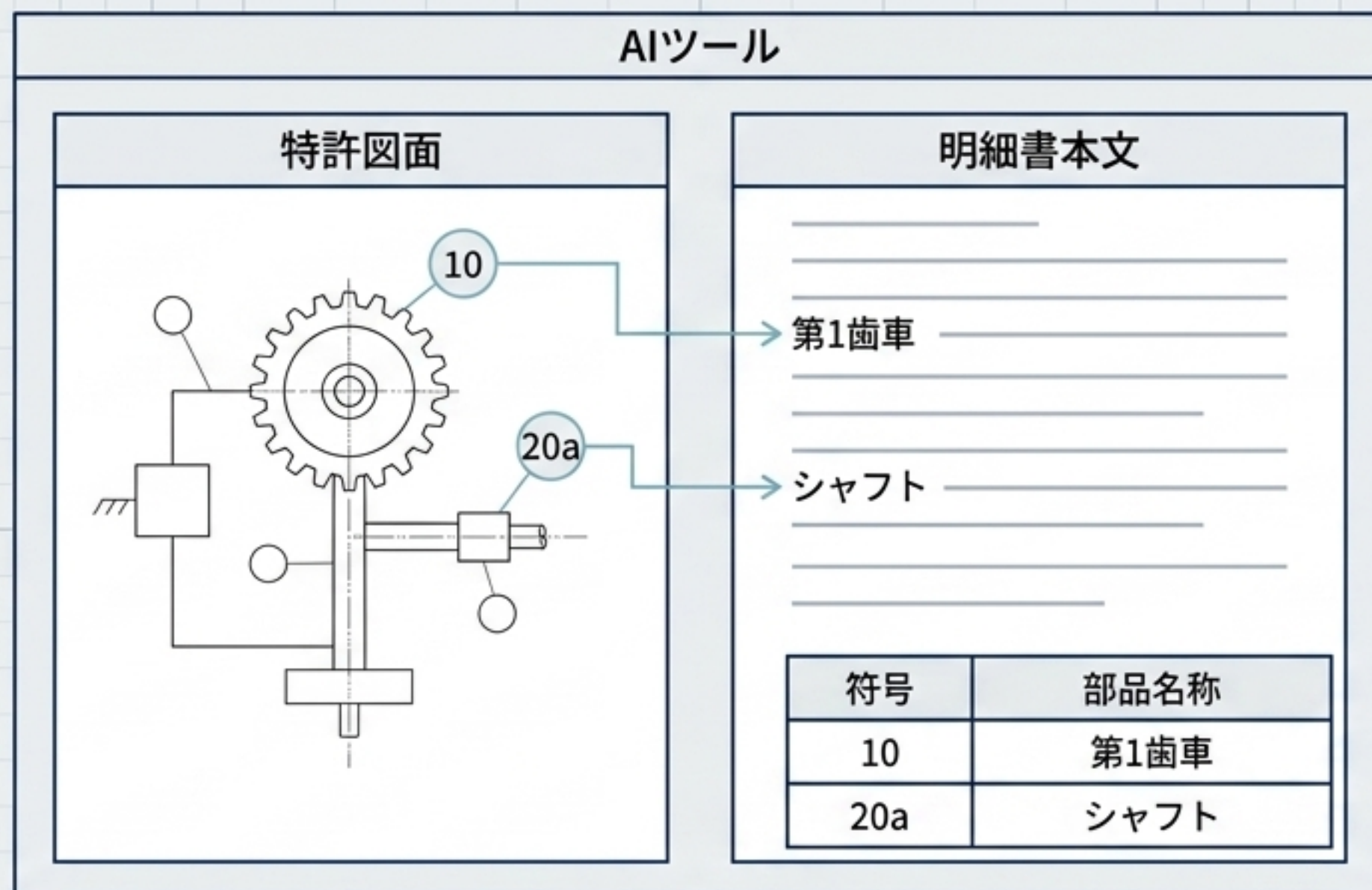
NTTドコモビジネスが法人提供する『特許出願業務支援AIエージェント』。
発明のハードルを極限まで下げることで、無形資産の蓄積を加速させる

最大94%の時間圧縮と、専門家が主導する「コパイロット・モデル」の確立



生成AIは専門家の代替（リプレイス）ではない。AIの処理能力と専門家の知見を融合させる業務フローの再設計こそが、導入成功の鍵である

【次世代ユースケース 1】 視覚情報の自動紐付けによる「特許図面読解」の自動化



従来のボトルネック：

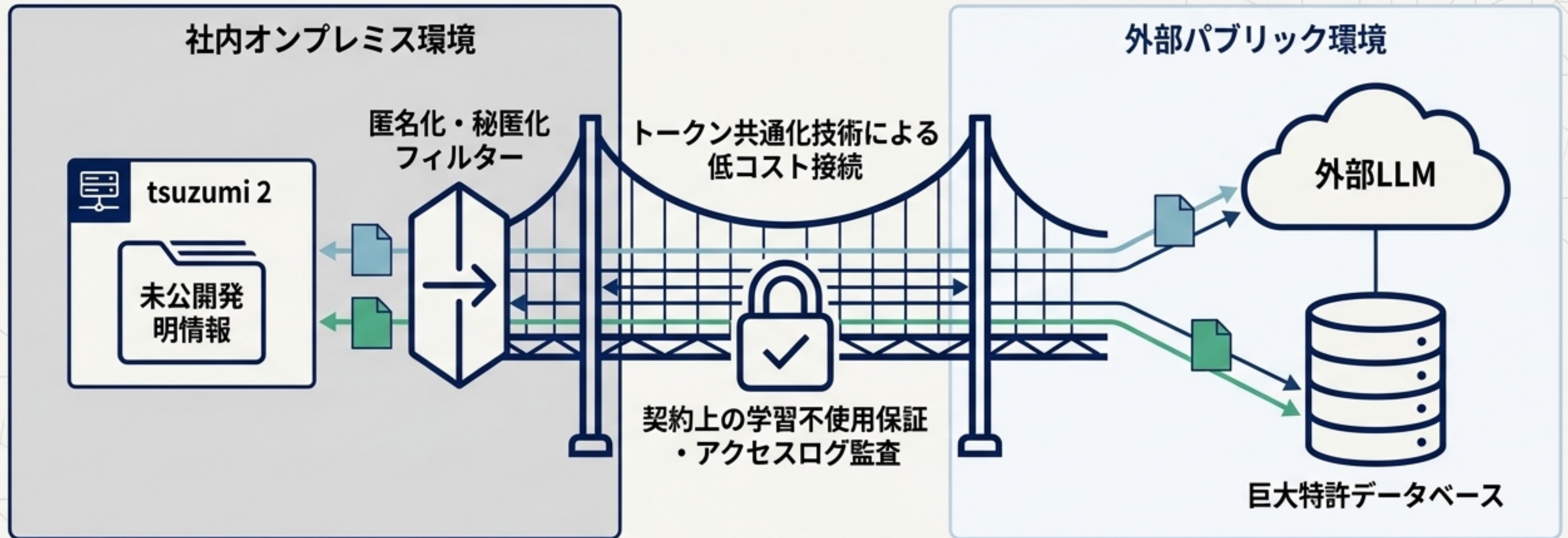
- 公報に含まれる図面の目視確認がRPA・自動化を阻害

Vision機能の適用：

- 図面中の参照符号と本文中の部品名称をAIが自動で関連付け。画像商標の先行図形検索や機械部品の検索スクリーニングを高速化

【次世代ユースケース3】

トークン共通化による「外部LLMとのセキュアなハイブリッド連携」



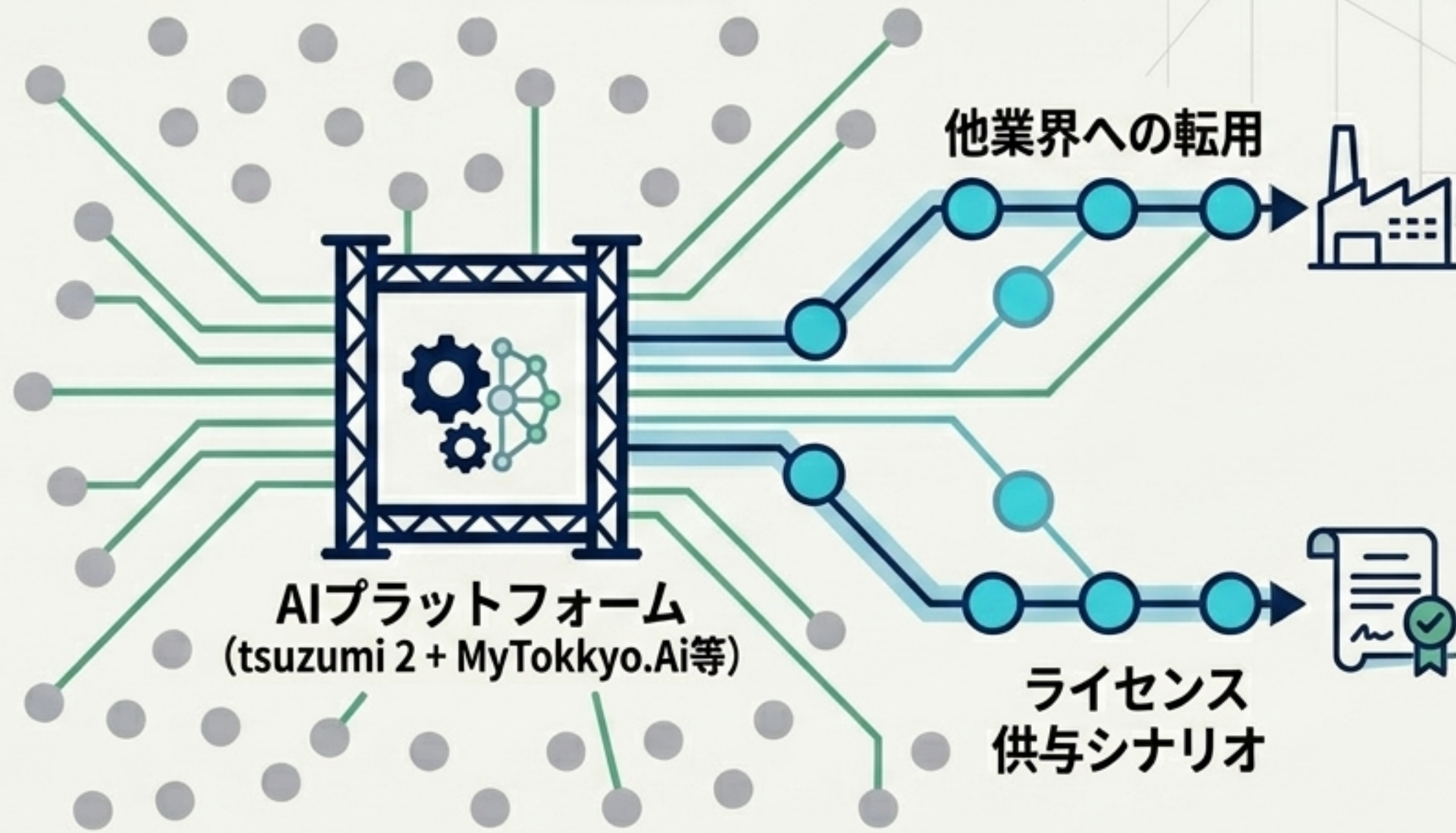
公開特許DBの検索・取得は外部の巨大LLMを活用しつつ、自社の機密データは社内tsuzumi 2で保持。
厳密な統制下で両者の知識を統合し、高度な知財戦略策定ツールへと昇華させる

「未活用特許」の価値再発見と、 ポートフォリオの全社的最適化

維持費負担の対象でしかなかった
膨大な未活用特許を、
ドメイン特化型LLMが
セキュア環境下で市場動向と
掛け合わせ網羅的に評価

知財部門を真の
『プロフィットセンター』へと変革する

未活用の自社特許群（維持費負担）

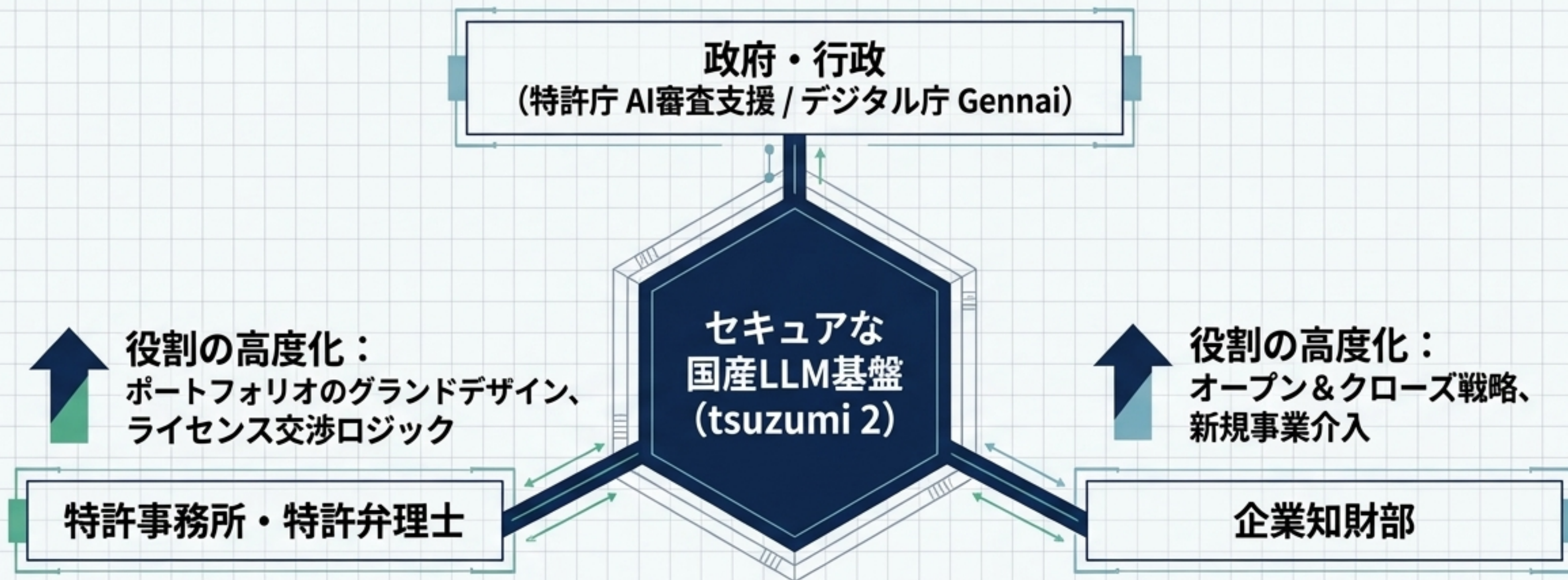


他業界への転用

AIプラットフォーム
(tsuzumi 2 + MyTokkyo.Ai等)

ライセンス
供与シナリオ

官民が連動する「知財エコシステム」と、専門人材の役割高度化



定型業務の自動化により、知財専門人材は出願書類のドラフト作成から解放され、より上流の『戦略的グランドデザイン』へと役割を移行させる。
国家インフラとしての国産LLMがこのエコシステムを支える

Conclusion: 無形資産を企業価値へ直結させるための3つのキードライバー

01. セキュアな基盤 (Data Sovereignty)

1GPUオンプレミス稼働によるデータ主権の掌握。
『守秘性』と『新規性』を担保する唯一のインフラ。



02. マルチモーダル革新 (Vision & Integration)

トークン共通化とVision機能による、非構造化データ（特許図面等）の解読と異種モデルのセキュアな連携。



03. 人間との協働 (Strategic Copilot)

AIによるシェル生成と専門家の論理補強の融合。定型業務の94%圧縮と、人材の戦略的役割へのシフト。



イノベーションの優位性を保つ鍵は、セキュアな国産AIの実装と、専門家によるコパイロット体制の構築にある。2026年、知財戦略は次なる次元へ進化する。